2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日　２００５　年　　１　月　３０　日

Ⅰ　概要

実践団体・担当者名	名古屋市立大曽根中学校　（担当者：瀧田健司　　）	
連絡先	愛知県名古屋市北区上飯田東町 2-100　052-913-2266	
プランタイトル	大曽根を地震に強いまちにしよう 「大曽根レスキュー隊」	
目的	中学生が，自分たちの住むまちの防災について考え，まちの防災力をアップするための活動を行う。まちを舞台にまちのために役立つことを行うことで，生徒の自信とまちづくりの主体者としての意識も高める。	
プランの概略	総合的な学習の時間で，第１学年の生徒全員が「大曽根レスキュー隊」として，まちの防災について学習し，活動する。 生徒は，専門家やまちの人と関わりながら， ４つのプロジェクト　Ａ　それぞれの家で必ず備え隊（略称：家庭） Ｂ　地震時のまちの安全確かめ隊（略称：防災マップ） Ｃ　一人でも多くの命助け隊（略称：救助） Ｄ　避難所で快適ライフ過ごし隊（略称：避難所ライフ） に分かれて活動する。 まちの防災力を高めるための活動や提案を，まちの人に向けて行い，まちの人からの評価をもらう。活動に対するさまざまな評価をもとに振り返ることを通して，まちの役に立つことができたことを確かめ，今後も自信を持って，防災をはじめとする，まちのための活動に取り組んでいこうとする。	
プランの対象と参加人数	名古屋市立大曽根中学校１年生２０２人	
実施日時	２００４年９月～２００５年３月	
主な実施場所	名古屋市立大曽根中学校と学区内各所	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①　ＮＰＯ法人レスキューストックヤード ②　名古屋きた災害ボランティアネットワーク ③　ＮＰＯ法人まちの縁側育み隊 ④　名古屋市北消防署 ⑤　富士常葉大学劇団ふじさん
	連携したきっかけ・理由	①と③　これまでに行ってきた「まちづくり学習」において連携していたため，引き続き講師として連携を依頼した。 ②　名古屋市北区役所の紹介で連携した。 ④　普通救命講習を依頼した ⑤　本プランを通して知り合い，連携した。
	連携団体へのアプローチ方法	本校から，電話やメールなどで連絡し，連携を行った。
	連携団体との打合せ回数	①とは随時，②～⑤はとは３回ほど。

	連携団体との役割分担	①～④講話，実技講習 ⑤　演劇の公演 企画は本校教諭が行い，連携団体からは専門的なアドバイスや実技指導などを受けた。

Ⅱプラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	１０　名
	外部スタッフの総人数	０　名
	主なメンバーの役職・役割	責任者　河路隆行　（名古屋市立大曽根中学校長） 企画・渉外　瀧田健司　（同校教諭） 実施　同校第１学年所属教員　１０人
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	２００４年　４月　～　２００５年　９月
	立案時間	約２０時間
	上記のうち打合せ回数	１０回
プラン立案で注意を払った点工夫した点	○　生徒の学習活動への意欲を持続させるように。 ○　具体的な取り組みになるように。 ○　まちの人との関わりがもてるように。 ○　専門家と連携できるように。	
プラン立案で苦労した点	○　多くの生徒が同時に，様々な活動を行い，様々な人が関わるプランであるため，活動の全体像を，生徒，まちの人，専門家，教員スタッフにわかりやすく示す必要があった。 ○　４つのプロジェクトそれぞれのアウトプットの方法をどうするか，実現可能性を探りながらのイメージ作りに苦労した。 ○　まちの人，専門家と連携をとり，正規の学校カリキュラムに合わせて日程を調整することに苦労した。（中学校では時間割を動かしづらい）	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	１０名
	外部スタッフの総人数	６名
	主なメンバーの役職・役割	責任者　河路隆行　（名古屋市立大曽根中学校長） 企画・渉外　瀧田健司　（同校教諭） 実施　同校第１学年所属教員　１０人 連携団体が外部スタッフとして関わり，教諭から出された授業（活動）プランに対して，専門的な立場から，その内容を検討し助言した。また，生徒向けの資料などを準備した。
準備に要した日数・時間	準備期間	２００４年　９月～　２００４年　２月
	準備総時間	約３０時間
	上記の内打合せ回数	約２０回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	名古屋市立大曽根中学校(本校) 名古屋市立宮前小学校，名古屋市立飯田小学校， 名古屋市立六郷北小学校，名古屋市立六郷小学校

	どのように働きかけたか	本校内では，職員全体への周知を行った。 上記の４つの小学校はすべて本校の学区内にあり，避難場所になっているため，その施設等の見学許可を依頼した。
	結果	小学校には快諾いただき，協力していただけた。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	区政協力委員長，コミュニティーセンター，区役所，消防署
	どのように働きかけたか	実際に訪問し，協力を依頼した。
	結果	どこも大変協力的に対応していただけた。
保護者・ＰＴＡへの働きかけ	働きかけた保護者・ＰＴＡ組織名	本校保護者
	どのように働きかけたか	保護者会のおりに話す。学年通信を通して活動を伝える。
	結果	生徒の活動について知ってもらうことができた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	①　スクリーン，プロジェクター，ＰＣなど ②　上記「プランの概略」にある活動Ａでは，市販の救助袋，手作りの防災ずきんなど ③　活動Ｂでは，拡大コピーした地図，シールなど ④　活動Ｃでは，心肺蘇生訓練用のダミー人形など ⑤　活動Ｄでは，炊き出し用の鍋や，非常食など
	入手先・入手方法	①　校内の備品を活用　④　消防署などで入手 ②　ホームセンターなどで入手　⑤　区役所から入手 ③　事務用品店で入手
	機材･教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	それぞれの活動に直接関係する，具体的なものを選んだ。
参加者の募集	募集方法	本校生徒は，授業として参加。 保護者には，発表会や授業参観への案内を配布。 地域の人一般には，発表会の開催を回覧板などを通して告知。
	募集期間	２０００年　１月２０日　～　２月２２日
	参加予想人数	発表会への参加予想　１００名（生徒を除く）
	実際の参加人数	名　２月２３日実施予定
	募集方法の成功点	発表会をまだ行っていないため，記入できず。
	募集方法の失敗点	同上
準備で苦労した点・工夫した点		○　様々な活動が同時に行われるため，それぞれの活動の内容や進捗状況など，学校職員間での共通認識が持ちにくかった。 ○　活動を進めながらでないと，必要な物品や準備が見えてこないため，なかなか計画的な活動支援が行えない。 ○協力していただいている専門家に，各活動場所を順に回ってもらい，アドバイスがもらえるように工夫した。

Ⅳ　タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11 月	チャレンジプランへの応募検討		２００３年度の実践のまとめ作成
12 月	チャレンジプランへの応募内容の検討，企画書の作成		
2004 1 月			
2 月			
3 月			
4 月	総合的な学習の年間プランを作成し，防災学習の位置づけと，学習の時期を決定		関連学習（総合） 出会い，発見，大曽根のまち
5 月			
6 月			
7 月			
8 月			
9 月	大曽根レスキュー隊の概要と，日程の素案を示し，関係機関，団体と打ち合わせ	授業の実施に向けて準備を始める	22 日に第１回の授業を行い，活動が始まる
10 月	授業の進行に合わせて随時打ち合わせをしながら，プランの修正を行う	授業の進行に合わせて，準備を行う	総合的な学習の時間に，活動を行う。
11 月			
12 月			
2005 1 月			
2 月			まちの人を招いて発表会を行う
3 月			ふりかえりを行う

Ⅴ実践の詳細　【C．総合的な学習の時間　】（学習の準備段階から授業時間（コマ）毎に記載して下さい。）

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
1	2004年 9月 22 日 13:30	大曽根 中学校 体育館	「オリエンテーション」 これからの学習課題について知る。 講師から，地震災害について学ぶ。 防災クイズ ビデオ視聴 講話 ふりかえり	これからの学習活動について知らせる。 外部講師　浦野愛氏（レスキューストックヤード：以下RSYと略）に来てもらい，地震が起こるとどんな被害が出るのか，命・家族を守るためにどうすればよいのか，地域の人たちと協力体制を作ることの大切さなどについて話してもらう。地震災害のイメージ化を図る。	クイズに答える。 ビデオを見たり，話を聞いたりしながら，わかったことをメモする。 わかったこと感じたことをまとめる。	活動内容を理解し，今後の活動に意欲を持つことができたか。	スクリーン ビデオ プロジェクター パソコン 放送設備 ワークシート	中学１年生の実態に即して話をしてもらえるように，講師と綿密に打ち合わせをした。
2.	9月29日 11:50	各教室 （６学級）	「東海地震が起こったら，わたしたちのまちはどうなる？」 「今，地震が起きたとしたらどんなことに不安を感じるか？どんな問題が出てくるか？」という課題で，ポストイットトークを行う。 「地震が起こったときの，不安や問題を解決するためにどんなことが必要なのか，」という課題で話し合う。 ふりかえり	ポストイットを使いながら，全員が話し合いに参加できるように支援する。 外部講師　松田曜子氏（ＲＳＹ　京都大学防災研究所）に各教室をまわってもらい，アドバイスしてもらう。	災害時の様子を，具体的に想像する。 災害時の様々な問題を解決するために，個人でできること，協力がないとできないことをそれぞれ考える。	災害を自分のこととして，とらえることができたか。 仲間の意見も尊重しながら，話し合うことができたか。 自分のアイディアを，発表することができたか。	付せん紙（ポストイット） 模造紙 色ペン ワークシート	ポストイットを使うことで，全員の意見を反映したまとめができた。
3	10月27日 13:10	体育館	「まちの人からの依頼」 まちの人（中学校の校区にある４つの小学校区の代表）からまちの防災のために中学生の力をぜひ貸してほしいという依頼を受ける。 依頼の内容から，４つのプロジェクトに分かれて活動することを知り，自分が活動するプロジェクトを選択する。 ふりかえり	４小学校の区政協力委員長さんを招く。 これまでの大曽根中学校のまちづくり学習を評価してもらった上で，防災の活動への取り組みを促してもらう， ４つのプロジェクトの中から，自分の活動したいプロジェクトを選ばせるようにし，なるべく希望に添うように振り分ける。以下のようになった。 「家庭」54人　「防災マップ」46人 「救助」52人　「避難所ライフ」50人	まちの人の話を聞く。 ４つのプロジェクトを知り，自分の活動したいものを選ぶ。	まちの人の気持ちを理解することができたか。 自分の選んだプロジェクトでの活動を通して，まちの役に立とうという意欲を持つことができたか。	放送設備 ワークシート	区政協力委員長さんから，学区の実情を聞き，生徒のできそうな活動にまとめていく点で苦労した。 ２０３人の生徒のうち，大多数の生徒が第１希望のプロジェクトに，それ以外の生徒も第２希望のプロジェクトに振り分けることができた。
4	11月9日 14:05	体育館	「劇団ふじさんの公演」 大学生による演劇を鑑賞し，人命救助の方法，防災への備えの大切さなどを学ぶ。 また，演劇という発表方法の有効性を体験的に感じる。 ほのぼのあかりの制作（時間不足で延期）	外部講師　重川希志重氏　劇団「ふじさん」（富士常葉大学）に来ていただき，演劇という形で，防災への取り組みについて紹介してもらう。 身近な材料を使って，役に立つものを作る。	演劇を鑑賞し，防災への備えなどを学ぶ。 演劇という形での発表方法の楽しさを知る。	演劇を見て，学んだこと，気付いたことを自分たちの活動に生かそうとすることができたか。	プロジェクター　移動映写幕 記録用ビデオ撮影機，三脚 ワークシート サラダオイル，アルミホイル ティッシュペーパー，つまようじ，ガラス製の容器（ジャムなどのふた付きのびん　ライター	渋滞で，劇団ふじさんの到着が予定よりかなり遅れたため，非常にあわただしい日程となった。 ほのぼのあかりを学生さんとともに作る予定だったが，時間切れになってしまった。
5	11月10日 13:10	各教室 名古屋 北消防 署	プロジェクト別の活動　① 各プロジェクトに分かれて活動 「家庭」：自宅の危険チェック図を書こう 「防災マップ」：大曽根中学校付近の地震時に危険なもの役に立つもの 「救助」：消防署へ普通救命講習を受けに行く 「避難所ライフ」：避難所の生活とは、避難所見学の計画	それぞれのプロジェクトごとに、これからの活動の流れを確認し、活動計画を立てさせる。 実際に活動を行う支援をする。	自宅の危険チェック図を書く 大きな地図に知っていることを書き込む 普通救命講習を受講(救助) 避難所の生活を想像し，見学の計画を立てる	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート デジタルカメラ	それぞれのプロジェクトごとに分かれて、それぞれの計画に従って活動が始まった。 救急プロジェクトが、早速消防署で救命講習を受講し、全体のモチベーションが上がった。

6	11月17日 13:10	各教室 特別教室 学区内各所	プロジェクト別の活動　② 「家庭」いろいろな場面での対処法について調べる 「防災マップ」大曽根中学校付近の実地調査 「救助」前回の講習のまとめと礼状書き 「避難所ライフ」校区にある避難所へ見学に行く	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 外部講師　栗田暢之氏（RSY）を迎え、それぞれのプロジェクトに助言をしてもらう。 学校の外へ出て活動するプロジェクトについては、訪問先への連絡、安全の確保に留意する	図書などの資料を調査する。 まちを実際に歩いて調査する。 学んだことをこれからの活動に生かすようにする。 避難所の設備などについて見学する。	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート 図書などの資料 学区地図 デジタルカメラ 便せん	それぞれのプロジェクトが、創意をもって活動できた。 一方、別々に活動するため、全体の様子を把握することが難しい。
7	11月24日 13:10	各教室 特別教室	プロジェクト別の活動　③ 新世紀学校づくり推進事業発表会 「家庭」地震が起きたときに持ち出すものを考える 「防災マップ」前回の実地調査を大きな地図にまとめる 「救助」各班のテーマ決め 「避難所ライフ」前回の調査のまとめ	この日は、名古屋市の学校関係者、保護者を招いて、新世紀学校づくり推進事業発表会が行われ、大曽根レスキュー隊の授業が公開される。 外部講師　松田曜子氏（RSY　京大防災研）を迎え、主に防災マップづくりへの支援をしてもらう。	家庭で、地震が起きたときに持ち出すものを考える 実際に見てきたことを、地図にまとめる。 各班ごとにどんなテーマで取り組むか考える 聞き取り、写真の整理をする	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート 図書資料 学区拡大地図 色ペン 色シールなど	多くの参観者に見守られながら、緊張感をもって活動を行うことができた。
8	12月1日 13:10	各教室 特別教室 学区内各所	プロジェクト別の活動　④ 「家庭」 家庭での防災の方法について調査する。 「防災マップ」前回のマップを完成させ、班ごとに評価し合う。 「救助」判別に決めたテーマについて取材、調査をする。 「避難所ライフ」外部へのアンケート調査の準備、	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 外部講師　松田曜子氏（RSY　京大防災研）を迎え、それぞれのプロジェクトに助言をしてもらう。	図書やHPなどで、資料を集める、 各班のマップの良いところを参考にする 判別の調査を進める。 まちの人へのアンケートの内容を考える。	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート コンピュータ 図書資料 学区地図 付せん紙 デジタルカメラ	各プロジェクトとも、その中でいくつかのグループに分かれて活動していた。
9	12月8日 13:10	各教室 特別教室 学区内各所	プロジェクト別の活動　⑤ 「家庭」 家庭での防災の方法について調査する。 「防災マップ」班ごとに担当区域を決め，調査の作戦会議を行う 「救助」判別に決めたテーマについて取材、調査をする。 「避難所ライフ」校外でのアンケート調査	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 学校の外へ出て活動するプロジェクトについては、訪問先への連絡、安全の確保に留意する	図書やHPなどで、資料を集める、 調査地域を決め，調査方法を話し合う 判別の調査を進める。 まちの人へのアンケートを行う。	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート コンピュータ 図書資料 地域別地図 デジタルカメラ 調査用紙	各プロジェクト，各班それぞれの活動が続く。
10	12月15日 13:10	各教室 特別教室 学区内各所	プロジェクト別の活動　⑥ 「家庭」 調査したことをまとめる。 「防災マップ」学区別マップの実地調査① 「救助」判別に決めたテーマについて取材、調査をする。 「避難所ライフ」区役所の人に質問	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 外部講師　栗田暢之氏（RSY）を迎え、それぞれのプロジェクトに助言をしてもらう。 学校の外へ出て活動するプロジェクトについては、訪問先への連絡、安全の確保に留意する 外部講師　名古屋市北区役所総務課避難所担当者に来校してもらい，質問に答えてもらう。	調査活動と平行して，まとめ始める。 班ごとに決められた地域を実地調査する。 班別の調査を進める。 大隈病院へ取材。 区役所の担当者に質問する。	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート コンピュータ 図書資料 地域別地図 デジタルカメラ 質問要項	各プロジェクト，各班それぞれの活動が続く。
11	2005年 1月19日 13:10	各教室 特別教室 学区内各所	プロジェクト別の活動　⑦ 「家庭」 調査したことをまとめる。 「防災マップ」学区別マップの実地調査② 「救助」判別に決めたテーマについて調査したことをまとめる。 「避難所ライフ」調査のまとめ，街頭アンケート	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 外部講師　浦野愛氏（RSY）を迎え、それぞれのプロジェクトに助言をしてもらう。 学校の外へ出て活動するプロジェクトについては、訪問先への連絡、安全の確保に留意する	調査したことを模造紙や，紙芝居にまとめる。 前回の調査で不十分だったところを再調査する。 それぞれのテーマで調査したことをまとめる。 調査内容のまとめ，街頭アンケート	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート コンピュータ 図書資料 地域別地図 デジタルカメラ 質問要項	全体のまとめに向けて活動しているが，発表会のイメージがつかめないため，効果的なアウトプットの発想がなかなか出てこない。

12	1月26日 13:10	各教室 特別教室	プロジェクト別の活動　⑧ 「家庭」 防災ずきんの制作 「防災マップ」地域別マップの作製① 「救助」調査のまとめ 「避難所ライフ」調査のまとめ	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 外部講師　松田曜子氏（ＲＳＹ）　延藤安弘氏（まちの縁側育み隊）を迎え、それぞれのプロジェクトに助言をしてもらう。 外部講師　新井明子氏ら５人（名古屋きた災害ボランティアネットワーク）を迎え，防災ずきんの制作を指導してもらう。	防災ずきん作り 地域別防災マップ作り 調査のまとめ，発表準備 調査のまとめ，発表準備	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート キルティング布など 地域別拡大地図 色シールなど 模造紙 色ペン	実際に防災ずきんを作ることで，地震への備えを具体的に実感できた。 劇や紙芝居で発表しようとするところなど，アウトプットへの発想が少しずつ豊かになってきた。
13	2月2日 13:10	各教室 特別教室	プロジェクト別の活動　⑨（予定） 「家庭」 まとめ，発表準備 「防災マップ」地域別マップの作製② 「救助」まとめ，発表準備 「避難所ライフ」まとめ，発表準備	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。 外部講師　松田曜子氏（ＲＳＹ）　延藤安弘氏（まちの縁側育み隊）を迎え、それぞれのプロジェクトに助言をしてもらう。	調査のまとめ，発表準備 地域別マップ作り 調査のまとめ，発表準備 調査のまとめ，発表準備	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 今後に見通しを持って活動に取り組むことができたか。	ワークシート 地域別拡大地図 色シールなど 模造紙など 色ペン	大曽根レスキュー隊　防災博覧会に向けて，参観者にしっかりアピールできるように準備を進める。
14	2月9日 13:10	各教室 特別教室	プロジェクト別の活動　⑩（予定） 「家庭」 まとめ，発表準備 「防災マップ」まとめ，発表準備 「救助」まとめ，発表準備 「避難所ライフ」まとめ，発表準備	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。	調査のまとめ，発表準備	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 発表会への意欲を高め，準備を進めることができたか。	ワークシート 地域別地図 色シールなど 模造紙など 色ペン	大曽根レスキュー隊　防災博覧会に向けて，参観者にしっかりアピールできるように準備を進める。
15	2月16日 9:00		プロジェクト別の活動　⑪（予定） 「家庭」 まとめ，発表準備 「防災マップ」まとめ，発表準備 「救助」まとめ，発表準備 「避難所ライフ」まとめ，発表準備	それぞれのプロジェクトごとに、生徒の活動を支援する。	調査のまとめ，発表準備	それぞれの活動に意欲的に取り組むことができたか。 発表会への意欲を高め，準備を進めることができたか。	ワークシート 地図 色シールなど 模造紙など 色ペン	大曽根レスキュー隊　防災博覧会に向けて，参観者にしっかりアピールできるように準備を進める。
15	2月23日 13:30 14:00 15:00 15:20	体育館	大曽根レスキュー隊　防災博覧会（予定） すべてのプロジェクトから代表者が５分ずつ，自分たちの活動の概要を全体に向けて話す。 プロジェクトごとに４つのブースに分かれそれぞれに発表 まちの人からの話を聞く 専門家からの話を聞く 終了	学区の人への告知　回覧板を使っての広報 新聞社への広報依頼 お世話になった関係者，区政協力委員などを招待，する。 それぞれのプロジェクトごとに，生徒の活動を支援する。 ブースの設置の準備をする。 区政協力委員長， 外部講師　栗田暢之氏（ＲＳＹ）から，講評をもらう。	各プロジェクト，班ごとに発表を行う。	これまでの活動から，得たことや提案を，多くの人に知ってもらおうする。 参観者によくわかるように，発表することができたか。	ワークシート 発表に必要な物品 心肺蘇生法実習用の人形 炊き出し用の釜，コンロ カンパンなどの非常食 避難所の備品， 発表用パネル 拡声装置 参観者の声を集めるボード 放送設備	地域の人にも広く参加を呼びかける。 参観者からの感想などを，なるべく多く集める。
16	3月2日 13:30	各教室	全体のふりかえり　（予定）	プロジェクトごとに，肯定的なふりかえりになるように支援する。	ワークシートを使って，これまでの活動を振り返る。	これまでの活動を振り返り，活動への自信と，今後もまちの役に立ちたいという思いをもつことができる。	ワークシート	これまでの活動全体が振り返られるようなワークシートを作製する。

Ⅵ実践後

参加者へのアンケート結果	一般参加者に対しては2月２３日に，生徒に対しては３月２日に実施予定	
成果として得たこと	○　これまでのところ，生徒はそれぞれのプロジェクトごとの様々な活動に取り組むことを通して，地震への備えを自分のこと，身近なこととしてとらえ，防災意識が向上しているように思われる。活動への自信から，今後もまちの役に立つことをしたいという思いが醸成されつつある。 ○　保護者や，地域の人も生徒たちの活動を知り，それを応援するとともに，自分たちの防災を中学生とともに考えていこうとする機運が生まれつつある。	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） 学習指導案，指導計画書，ワークシート	
広報方法	広報した先	町内会 中日新聞社，北ホームニュース，ＣＢＣテレビなど
	広報の方法	回覧板 電話や定例会への参加
	取材にきたマスコミ	（予定）中日新聞，北ホームニュース，ＣＢＣテレビ
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	○　2004年９月５日の紀伊半島南東沖地震を皮切り，新潟県中越地震，スマトラ島沖地震と，身の回りに地震が頻発し，生徒にとっても地震への備えは人ごとではなかった。「防災」という人の役に立つ具体的な学習課題を設定することで，生徒は意欲を持って活動に取り組めた。 ○　生徒の活動内容がどれだけの広がりを持ち，充実したものとなるかは，各プロジェクトを担当する教員一人一人の持つ引き出しの多さ，懐の深さにかなり左右される。教員同士また外部講師と教員のコミュニケーションをとる時間，参考図書などを調べる時間など，各教員が日々の業務に追われる中での時間確保の重要性が感じられた。 ○　外部講師にたくさん来ていただけたおかげで，専門的なアドバイスがいただける上，活動に幅が出た。資金面での助成があったためにできたことであり，それがないと難しい。地域との連携については，まだまだ不足している。しかし，防災に限らず，様々な場面で ○　中学校側からどんどん地域に働きかけていって，地域との連携を深めていこうとする姿勢は持ち続けたい。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○　体育館での発表会以降にも，小グループで地域のコミュニティーセンターなどに出かけていって，地域の人に向けての防災発表会の「出前」を行いたい。 ○　来年度の後期から，再来年度の前期にかけて，総合的な学習の時間で，まちのためにできることを考え，実際にまちの役に立つ活動に取り組ませたい。その中の活動の一つとして，まちの防災は重要なテーマになると考える。
	是非実施してみたい取り組み	○　地域との共催で，まちの人ともに，防災まち歩き。 ○　ＰＴＡの主催で，体育館での１ｄａｙ模擬避難所生活など。